

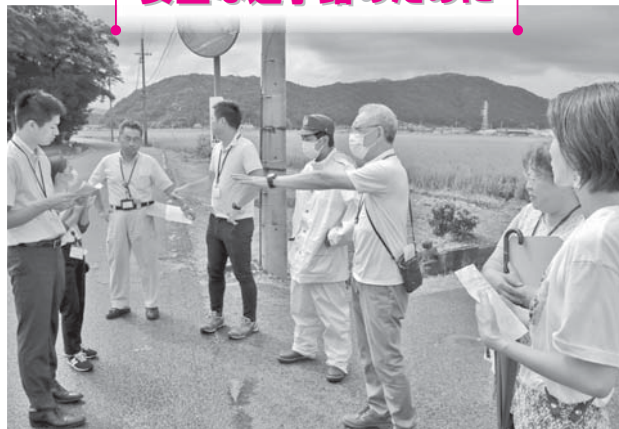
戦後78年 戦争の悲惨さを忘れないために



8月26日(土)に町中央公民館にて「戦争体験のお話を聞く会」を開催しました。祐泉寺(蛇持)住職である佐竹哲さんと町遺族会の陸田敏弘さんを講師として迎え、佐竹さんは「満蒙開拓団の悲劇について」を演題とし、陸田さんは「『寄せ書きの日の丸』が語りかける『戦争と平和』」を演題として、それぞれが調べたり体験した戦争により起きた悲劇について話しました。

戦後78年を迎え、ほとんどが戦争を知らない世代となっていく中で、これから先も戦争の悲惨を風化させることなく、守られてきた平和を繋いでいくために必要なことを参加者に訴えました。

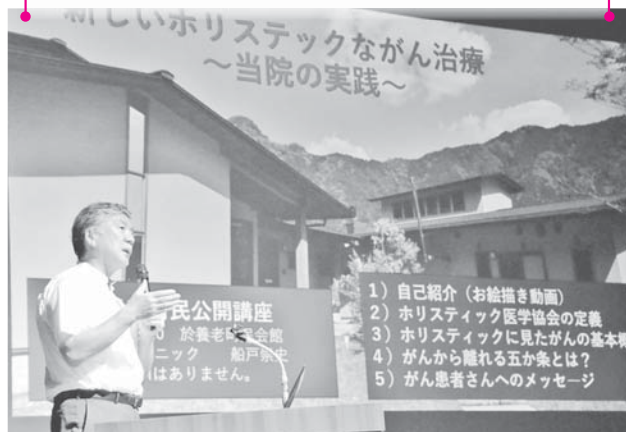
安全な通学路のために



各地区の通学路などに存在する危険箇所において『通学路交通安全プログラム』に基づき、学校、こども園・保育園、PTA、区長、町教育委員会教育総務課、町建設課、町子ども課、大垣土木事務所、養老警察署、養老地区交通安全協会が合同点検を行いました。

通学路上に存在する危険箇所の現状を確認するために、8月3日(木)に養北小学校と養北こども園、8日(火)に高田中学校、養老こども園と高田保育園、9日(水)に日吉小学校において実施しました。子どもたちが毎日安全に利用できる通学路とするために取るべき対策について協議しました。

病気と身体について全体を捉えて考える



8月20日(日)に町民会館において国際生命情報科学会(I S L I S イスリス)と町が主催で、第56回生命情報科学シンポジウムとして「ホリスティック(全人的)ながん治療」についての町民公開講座を開催しました。ホリスティック医療とは「身体」だけでなく「心」も含めて診る、「個人」だけではなく「環境」も含めて診る、というように「全体を診る医療」です。

4人の講師により「全体的ながん治療」をテーマとした新しい視点でのがんとの付き合い方について、町民にもわかりやすい講演が行われ、参加者はがん治療に取り組んでいくうえで重要な心構えについて、時折頷きながら聞いていました。

大きな功績をたたえ、感謝を



9月1日(金)に佐竹直太郎翁顕彰碑前において佐竹直太郎翁顕彰会主催の顕彰祭が行われ、地域住民や遺族らが参加しました。顕彰祭は4年振りに通常通り開催され、牧田川の改修工事に尽力するなど、地域の治水事業に大きな功績を残した佐竹直太郎翁に対して感謝するとともに、その功績をたたえました。

顕彰会の会長である川地憲元町長は祭文奏上の中で、佐竹直太郎翁の残した功績を振り返りながら、偉大な遺徳を偲びつつ、災害に強いまちづくりを進め、町の更なる発展に邁進していくことを誓いました。